＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
TRACK 07｜綾子となつき
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
<完全な無音：約3秒>
<BGM：翌朝の穏やかな草むら。葉を撫でる風と、遠くの虫の声・小鳥の声。ローパス／残響を継続。台詞が聞き取りやすいよう調整>
<SE: 葉の上を歩く音>

【このトラックは親しい女性への話し方。男に対しての冷たい丁寧語から、
柔らかく自然なタメ口へ切り替える】

…あら、なつき。
こんなところにいたのね。
もう落ち着いた？
…ふふ。
無事でよかった。
…ああ。
あの男のことね。

<SE：なつきが葉を一度だけ叩く>

…そういえば、昨日食べたわね。
なつき、あの男を許してあげてって言ってたよね。
それなのに、私、食べちゃった。
…ごめんなさい。
あなたの優しい願いを聞いてあげられなくて。
…。
でも、安心して。
あの男、食べられて喜んでいたのよ。
私におちんちんを食べられながら、嬉しすぎて口の中で精子をお漏らししたの。
ほんっと、男ってバカだよね。
…。

【なつき】「ふふっ。」【なつきの、かなり控えめな笑い声。】

…今、笑ってくれた。
よかった。
私は、女性たちに常に笑顔でいて欲しい。
そして、あの男の身体のほとんどは、今では私の栄養になっている。
どうせあの男は、今、私の胃袋の中でこう言っているのよ。
「男の罪深き脳みそを構成していた物質が、女性の誇り高き脳みそのための栄養になる。
男の精子を構成していた物質が、女性の卵子を作る栄養になる。
男性器を構成していた物質が、女性器の栄養になる。
男子として、こんなに誇らしいことはない」って。

【なつき】「あはは。」【なつきの、少しだけ控えめな笑い声（最初より強く笑う）。】

…ふふ。
また笑ってくれた。
でも、あの男のことを思って、大笑いはしないのね。
…本当に、なつきって優しい女の子。
…そうだ。なつき。
実は、二つだけ食べずに取っておいたものがあるんだけどね。
あの男の左の乳首と、左の睾丸。
これだけは、あなたにもお裾分けしようと思って、残しておいたの。
昨日、なくさないように、私の中にしまっておいたの。
ほら、今、取り出したわ。

<SE：葉がかすかに動く音。その後、短い間>
《状況説明: 綾子がトラック５で女性器内に保管した二つを、ここで取り出して見せる。具体的な動作音は必要なく、台詞と間で伝える。》

…あら。ためらっているのね。

<SE：なつきが半歩下がる、小さな葉擦れ>

そうよね。急にこんなものを渡されても、戸惑うわよね。
でもね、なつき。
女子に食べられて、女子の命を支える。
それこそが、男子の本懐であり、本望なのよ。
私は、男子のそんなバカな本懐を遂げさせてあげた。
…もちろん、嫌だったら断っていいのよ。
食べ物を食べるか、残すかは、食べる女性が自由に決めることだから。

《なつきはなおためらい、しばらく沈黙する。》

まだ迷っているわね。
食べてあげるのが供養なのか、
食べないことで男の尊厳を守るべきかで迷ってる。
ほんとになつきは優しい。
…。
こういう考え方もしてみて。
性加害してきた男を、被害を受けた女性が食べることで、
他の女性が被害を受けることを防げるの。
…。
ふふ、ちょっと心が傾いたでしょ？
なつきには、私と同じように、女性の味方で居てほしい。

<SE：短い沈黙のあと、なつきが一歩近づく葉擦れ>

…いいの？　食べてくれるの？

<SE：短い葉擦れ。その後、少し間を置く>

【以下、なつきの咀嚼・嚥下音なので収録は必要ありません】
【定位：やや右やや遠め】

【咀嚼音 10 秒】
【嚥下音 1 回】
<間 2 秒>
【咀嚼音 10 秒】
【嚥下音 1 回】
【以上なつきの咀嚼・嚥下音】

…ふふ。二つとも食べてくれたのね。
ありがとう、なつき。
…あら。そんな顔して。
まだ、ちょっと複雑な気持ちなのね。

《なつきが小さくうなずく。》

…そうよね。
ねえ、なつき。こっちにおいで。
…ぎゅってしてもいい？

<SE：なつきが綾子に近づく、小さな葉擦れ>

《なつきが応じ、二人が抱き合う。ここから、なつきの声が聞き手にも明瞭に聞こえるようになる。胃袋の中から聞く音響処理は維持する》

…ふふ。こんなに近づいたら、もしかしたら、あの男にもなつきの声が聞こえてるかもね。（笑）
…ねえ、なつき。さっきの、どうだった？ どんな味がした？

【なつき】「……味っていうより。」
【なつき】「もう、男の人を怖がらなくていいんだって……そう思ったの。」

…そう。

【なつき】「男の人を食べるのは、やっぱりかわいそうだと思う。」
【なつき】「でも……私も男の人を食べて、ほかの女の子を守る側に加われたんだって思うと…。」
【なつき】「そのことのほうが、ずっと嬉しかった。」

…ふふ。そうだったんだね。多分それは、『女の子の勝利の味』だったんだと思うよ。

【なつき】「女の子の…勝利？」

そうよ。……ありがとう、なつき。
女の子の敵だった男を、女の子たちが分け合って食べ尽くし、他の女の子たちを性被害から守った。
なつきが食べてくれたおかげで、私個人でもない、なつき個人でもない、連帯した女性たちの勝利を祝えた。

【なつき】「1人で負けちゃった男の人は可哀想だけど、そうかもしれない。」

ねえ、なつき。
女性の敵だった男のことまで、可哀想だと思える。
そんな優しいなつき、私は大好きだよ。

【なつき】「…私も、綾子のこと、大好き。」
【なつき】「綾子は、男の人から女の子たちを守ってくれるでしょう？」
【なつき】「すごく頼もしくて……憧れるの。」
【なつき】「私も、いつか綾子みたいに強くなりたい。」

…ありがとう、なつき。でも、なつきだって強いよ。
怖い思いをしたのに、自分で考えて、ちゃんと決められたんだから。

【綾子となつきが抱き合ったまま少し笑う。】

ふふふ。ふふふふふっ。

【なつき】　「ふふっ。ふふふふふっ。」

《二人がゆっくり抱擁を解く。なつきの声は笑いながら再び遠くなる》

【なつき】　「ふふふふふっ…。」【定位ゆっくり遠くなる】

さて、あの男のことは、もう終わった話。
どうでもいいこと。
大切なのは、私たち女性のこと。
この草むらには、女性だけいれば十分。
そしてなつきには、これからも元気に生きてほしいの。
…さあ。
一緒に帰ろ。
姉にも、なつきが無事だったことを知らせてあげたいの。

<SE：二人分の葉擦れが、ゆっくり遠ざかる>
<穏やかな草むらの環境音だけが残る>
<フェードアウト>